



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)杏林堂長泉中土狩店 新築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.1 /5		ふつう		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9 /5		がんばろう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5 /5		ふつう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5 /5		がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.1	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④20年耐用できるビニル床シート、壁ビニルクロス貼を用いた。 ④空調・給排水配管は、 主要な用途上位3種のうち2種類以上にC(30年耐用)に分類される管を使用。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥敷地の58.1%分の空地を確保し、風の通り道を確保した。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦断熱材グラスウール16kg/m³を用いて、省エネ法におけるBPI_mを0.93に抑え、 建物外皮の熱負荷を抑制した。 ⑨建築物省エネ法に適合できるよBEIm=0.83とし、一次エネルギー消費量を抑えた。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水型便器を使用している。 ⑫躯体材料以外において、リサイクル砕石を使用している。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭CO2自動計算より、ライフサイクルCO2が一般的な建物の86%である。 ⑮夏季の卓越風向に対する建築物の見付面積比を19%に抑え、隣棟間隔指数1.7874とし、 風通しを悪化させないよう配慮した。下とした。</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.12 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.13 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒</p> <p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>			
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	2.9
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯静岡県条例に従い、建築基準法に定められた20%の耐震性を有する。 ⑰節水型便器を使用している。 ⑰災害時・停電時に備え、非常用発電設備を設置した。 ⑰機械設備およびその配管の支持において、耐震クラスAの設計をしている。</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>		
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱⑲バリアフリー法の最低限の基準を満たす計画とした。 ⑳階高は4.8mで、空間の壁長さ比率は0.08と、空間に余裕を持たせた。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑屋外売場を配置できる程の庇を設け、都市空間の活動上のアメニティ向上に貢献した。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 ⑳ 階高のゆとり 3.1.2 ㉑ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</p>			
	"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	2.5
<p>■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) ㉓景観条例に適合できるように設計した。</p> <p>■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善) ㉖夏季の卓越風向に対する建築物の見付面積比を19%に抑え、隣棟間隔指数1.7874とし、 風通しを悪化させないよう配慮した。</p>	<p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 2 ⑥ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-2 2 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>			

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)杏林堂長泉中土狩店 新築工事	階数	1
建設地	静岡県駿東郡長泉町中土狩字二夕松	構造	S造
用途地域	準工業地域・法22条区域	平均居住人員	30 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,700 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年4月 予定	評価の実施日	2021年8月24日
敷地面積	5,761 m ²	作成者	相模 明
建築面積	2,376 m ²	確認日	
延床面積	2,266 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

★★★★★ A★★★★ B★★★ B'★★ C★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.6

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 これは、CASBEE静岡版による評価である。		その他 記載なし
Q1 室内環境 仕上げ材を全てF☆☆☆☆を使用することで環境に配慮している。	Q2 サービス性能 天井高が3.6mと高い開放性のある建物としている。	Q3 室外環境(敷地内) 景観条例を提出しており街並みに配慮している。
LR1 エネルギー 建築物省エネルギー法に適合するように配慮している。(BPI=0.93、BEI=0.83)	LR2 資源・マテリアル 節水型の便器を使用することで環境に配慮している。	LR3 敷地外環境 夏季の卓越風向に対する建築物の見付面積を19%に抑え、風通しがよくなるように配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい